風俗傳　八

特別
へ13
4147
8止

武道傳來記

佐國敬付

巻八

第一

同緑

野机乃煙くゝ色

第二

情や お髪若狭山嵐

波乃河 小木綿合羽

第三

情刑の浦浪清姫を討

雪れ歌舞ひもまね命ある

第四

行あくまる人乃身の程

伊賀の上野にて打治めるる乃物乃

第一

鄙机乃燈くくべ

石火電光秋くそ抱うれたもめ

猟れ一筋ちりく冊波の業別く横雲れ

生れ白布の幕うる色はかる藤掛ふ黒屋ふ入

ちりいげ迄色無段乃搗ちれく弟武ふ燈書る

一時三十あまりの美男女人一度ふ立く重箱の

蓋とあけお後と切くそひるい薩くの侍部より

んぐるーかりくりぷ寺人国乃求る今独り秘密人

四命とくは三人ハ大殿の出掛わりて孫色用ーと

くふ石れ光りと形ー世に栄へる。山ふ出死去ふ女

人達に出仕ーんぐーー出迷云ふかくあるべ江と出るり

あれば思ハ掛あ一命とあぐくへ人殿掛へ一命と掛く

出来云とお勤るん屋やーかくるんりぐ。人りん

元地といふわりく年法まひ武とあるそひくる
はなし山友の首尾あるいかるとて年よりわ
中の茶屋にて茶炉に川出して来る久四郎お浚か
くに焼茶瓶流しぬぎ上ふ仏のゐ細色なりしふ
久四郎立さ後ふ袴ろ福と踏く焼ぐ海ーさ示すて
ころびくろとそうあけま来る家茶仏ーやーさひ
ぬるゐ様よんへくれば久四郎せたんより久元おろ
焼茶瓶きぬふんとゐ三味ゐれく福寿山ろ入ふに
く来る代対くとぐふ仏ゐとれど立のたぬ打
ふーあくーはるーかーぬ油法ふく久四郎とゐこ
くる。来るゐたふ彼そ油とく十一歳を決と虎こ油七歳
よなりて童ゐんふと親れ敬とんりけくるそれり三
年ゐくく見平り出賭とり清母親ゐる色潤れ別まふく敬

久ふたれ下人ふ人ふ大木角右衛門今津みち吉山三人付添橋の
ちぐゐれ酒めぐり。河ゐつびたを宮めゐく年月かくく
彼ゐくるたふれふくゐんふくれくそれりいん年の
寿ゐるゆと時彼ゐ油ハ二十六歳虎こ油ハ十九の冬のとふ
ふ敬れ久四郎ゆ出羽の庄内ふ行くーこゐくゐと源
ふとれよーゐれふたふ城内いくぐりわ門く行く焼乃里ふ人ふれど借宿
ふく。角右衛門ハ斗焼と貴ハ父吉ハ茶屋吉蔵と貴ハ兄
油ハ蜜蜜のゐ茶と虎ゐ小乃助貴の負茶
ふ編笠かぶり屋敷町とゐりふれびくーふ敬れる敬
と安ふた今ふたれぬゐと敬れる河海ーさ町ふれよ
さーかるとタぐれいるそぐ恵の名ふふんたふれ敬ゆ
く彩づるひふゆるひ花山の酒横場ゐる奴落乃橋と

わかけものゝ手をとりてひかせてゆき酔乃ぬつれ素乃木
のまゝに入ぬ〻ぬく眠り角と入ぬく往来の朝わかとて
てさらぬ来る見るや素の拙くるひとく人とかわかれとか
して新門見せさてたりり虎之助色かゝ所不り来合と
さるぬ〻男のあげられ色せどもまこゝろ分のようかれ
ふかわる色雅楽とこのしーふぷトかんせあげく簪けうち
ようたあまりの女房やさしくさりとくいあふりとか
さんていりあへとゝさー明るく紙帳ゝ皮に入ぬ山雀と
のゝれたゞゝく家小休くく内儀とかんー小弟あふれ富
あゞゝ火燈に紙燭ふとんとりけく三線引夫箸
乃りて仏壇新のたくさあどれあーふぷやゝこれ女
奥ゆゝくんと付ふかんーの涼乃ようる拙ふお結び
乃弟の為さ只ちいこいれど三月ゝゆりそく

笑交ゝんら乃法とあゝく像入ゝるれ六十だゝ乃
色女せんー弟ゝてさー出ー待ふて帰ーこれ
ゝー外ゝおゝさあのつゞれ居れんく明ぷ女おな
さ海ゝいのくさーあひといさおぞりーぷ利後ゝとまさ
かゝ前ゝれ面彩れんてあ明れ月ゝれあの祝よりて
なーてゝさふゝー旬の嬉と手ゝせるゝ後の角かゝ
ふゝーゝありゝ毎月寄信ゝるれ拙乃ゝれゆも
あるゝゝれ拙ゝりゝ色ゝ毎ゝりぷゝゝけりゝ
通せ月ゝゝ色女れんゝも恥ど屋自ゝくの為ゝ
とかゝぷ乃河女ゝれひゝくひゝり美ひの人歌ゝ
あゝー嬉ゝれんせゝんゝいあゝば拙情かゝーゝれハ
りゝねゝゝいぷゝぷゝる他貴のりゝあゝんゝ系れ出ゝとゝ美ゝ
ゝば拙色あゝ大陽指ゝゝー乃付そあゝ拙ゝ系あ

世代たるの高人たるべきなり。
是用なる事なるべし。
又細代なのでおわれば
先自ら命は是を
知べし。武理つまり
武勇は其はよく
八丹波のもとして
後若久世の
のもとに
有べし。
所詮武
道は
人
の
ふ
ま
ま
ま

毛皮をあらためつゝ、毛清虎をゆかしくとゝのへて
為あれば連をもかへ持て市様にいたるゝ
をもつゝもつゝまぐるまいらいさつゝめて
下女ふしくゝ中間の髪の中へ投
入紙へくゝ結小枝持ゝ米のくゝ入をせ門と出
ゝるれば細ゝ屋敷をふるゝ世方のゝとなめ
くゝ出ゝるれ餐ゝ入ゝ虎をゆと
状元かゝるゝ首尾ゝ乃ゝ毛皮ゝ
くゝ結ゝ懐ゝて物ゝ月かゝるゝ男
ゝと安産ゝるゝ中ゆをゝ
くゝ出女ゝくゝ入ゝ
ゝゝゝ奥ゝ
市意ゝ仕ゝ

虎ゝゝと愛楽ゝかゝ付ゝ
ゝゝ時ゝ虎ゝゆゝ
ゝ年ゝ毎年三月十七日ゝ父紙ゝ
ゝ月ゝて光明院ゝ
人ゝゝゝ長持ゝ入ゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ
ゝ方ゝ
ゝ十七日ゝ上ゝ人ゝ
ゝ
ゝ
ゝ三人乃中ゝ

武蔵氏つねの久米郎求るゞ兄弟の悔み捨て[illegible]
[illegible]ゆゑ山ま打ち[illegible]せあく[illegible]
大方うらせてよく蓋とわくれど[illegible]時剃髪し
いと恥ゆく貢ぎうらめ[illegible]計出家とあ人[illegible]
ちん家の行べ住捨て[illegible]法師あまさ
よかせ去年乃[illegible]人面[illegible]
仕合て[illegible]
さらぐ玉[illegible]
とかうらぶ[illegible]
なりてもつのして用おの[illegible]
行まね人へ[illegible]
[illegible]
殿山[illegible]

第二　憤やお髪[illegible]
[illegible]小世[illegible]
[illegible]
小田[illegible]
自[illegible]
[illegible]
家中[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゑ者小蔵之乃ゆとゝ乃り勧め去年ゝ乃り若竹ふゝり
ゆ年の程一目とゝゆく岩くゆと男作さゝ世ゝ乃い朝
夕の程えん暮ゝ移ゝひゝ外ハゝ乃ゝ紀ゝ乃ゝ時ゝ乃ゝゆ
とゝゆくゝえ猫ゝゝ乃ゝゝ乃ゝゝ世ゝゝゝ乃ゝゝゝ
つくゝゝゝ

彩ひとつ、ゆるりとそれしら南蕃は書院ふあぐり〜ふ
ふ清水殿の巳富蕃のようまそて市廣るはく行合〜より能
くありくとさんとなる彩かくくとて市見てかくれ可
義ふわ〜ど巻の面新巻右兼つ年間ろ寄〜清ふ付勅光
彩ひどくあぐ〜ぐそれしつ記巻〜ゆふ一目色ちやく元
服さてるに彩ひとれい豆分きたのゆあれハ分多わ門
く彩〜ゆられと拙者ハ〜ゆられと拙者ハ〜ゆられと拙者ハ
合点せどぐ亡右兼つ新矣ひ匂編あ記河乃あ〜ひ某ひど
色彩わ〜なにふわ〜ど平情お掘と切〜ちゆ考氏人ちろ
された外のゆと富別のあ市耳ふ色兼〜清上氏拙
ゆ色わりゆ分彩ましろ〜かひすふ清水殿安せられく
ゆられ六十ふわまり清ちんぐハ橋彩ちまもとる華人今見ハ
月ぐ〜ますと咲え彩ぐ〜ぐ〜ぐ〜

仕合よなどまいはゝ花ゆいたつゝじ岩こゆ面の笹ゆ
てまきさゝべ一共ゆくしぢぞされた年月の流ゝ
色ゆ人いひとゆ色ゆ風くい師ゆうすくたる物ゆ
ゆ生色垂ゝたいお髮とゆへば清水御門ゆ山何年ゆ
嫁ゝとゆ海りこれいよいゆ世とゆ
とゆひ入てゆ有ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ乳ゆ
飛ゆ船ゆ世ゆ入ゆ来ゆ入ゆ海ゆ七ゆ糸ゆ
と物ゆ世ゆ世ゆ城ゆて物ゆ云ゆ一ゆ合ゆ思ゆ
ゆりとゆひゆゆゆゆて糸ゆ岩ゆ世ゆ年ゆ来ゆをゆ
家ゆ出ゆ海ゆ所ゆ乃ゆゆれゆ物ゆ織ゆゆゆ頭ゆ
く物ゆ物ゆ色ゆ出ゆと所ゆ宮ゆゆく頭ゆ
ゆくゆと清ゆ御ゆ色ゆとゆゆゆ今ゆゆ頭ゆ
ゆゆゆゆ

ちうと色合ひいさきねとえ服さをあひせる紙〳〵一分を
ゆさんと接折りよもとる紙切むしとびとを右兼つ色見ふさき
ぶあがて危ふ示へ寄来つ云用のゆわりく来かくり
ちが紙ふれとや付れるとくいふゆをちゝどびわりを
ととそまげお仮乃ちゝきかゝれひうれくとを右ゆ
大方ゆうをとと紙とうけく清水御小切くかぶされた
力かひあれ色見だれ折右方強ひあひをれとゝに法け
られあ人だふ切御ゝとぶめとさて迫示とを右兼つ
ふ雲色右兼つ通がゝとぶと切右方清水御大裂油紙小
別をとくふゝねぶとゝあうゝ百産ひまれ歌乃ゝうを
人乃歌まぐ折とあ付ふ

第三　嬬別乃浦沿背海り打

人八地乃ゆうをそをけき毎年伝流れ国相示乃ゆうを
ゆう変るゆ川せく示大まとつふる昌方嬬別を世ひを
知るる前八民右れ色るれ拾乃中一示ゆあるゆ山び
乃ふるハ鶴毛乃ふとくゝゝ海ゝく天晴色ゆく統
山とゆく自橋と沿甲斐ひあれを法小漆井右兼と
て兼中一番れるねまげ武蔵形小行くゆ色ゆを野
耳ゆ都くを切ゆを危あゝゆれ小示大まを仕合家
とゆの乃外ふるゆゆ金ゆ報ゆ戸出ゆ武指武あゆ
十人あをゆゆれ右ゝ後合ふゆく代金ハ鳴和ゆを
ゆを右て底ゆ法ゆを色示大まハ着て海乃ゆを出来
出ハ乃橋未ゆ示ゆを色ゆ方ゆれあふゆる代金ハ
まゆゆを山方へ右べゝとゆ示歌ハ海ゝ色れハ産ゆゝハ

今引くあるべしまつ井右衛門方へ行ばかりに用あ
りとて爰をあけ乃ち備へたる家令島せど。
此時はいまの人数なりと行せられいまぞ令元なりてあり
者程に引出す木之助方小行ばかりの張りあく代
金三枚より拾の利の利を付流とべと為来ちゆりの木之助
を久梅れる場よりて場所まで乞なとんてるとんとん行
く見程れるべいでハ中小ねそくくハあしびるまで
と御ゝれく私自場ちゝ私宅小ゆりくるぞ中小富数
久九郎とのゝる男を見ゝより亜小井右衛門方小行相也
と私市ゝあの乃所小くゝんゝ鶏毛と木之助来しとて私
義小来ゝるゝ乃あれ行れる伊ゝて実れぬべと云小井
右衛門ゝ乃ゝ見ゝ面に引ゝ行ゝ人場に行引ゝ
と急ぎ行右衛門と呼れやり隠ゝ小屋あり仕ゝ実れ

実ゝ見ゝ急ゝ引ゝ来ゝ来ゝ来れとあゝけあゝ何ゝ是ゝ
ら又木之助方へ行ゝのゝ乃備ゝ行ゝ乃ゝ酒ゝ方ゝ
場小井右衛門ゝ面ゝ場ゝ乃ゝ見ゝ私ゝ場ゝ
乃ゝ乃ゝ小ゝ来ゝ来ゝ市脇ゝ出上ハゝ人百ゝ人ゝ実
ハ殺ゝ人ゝ出ゝ云ゝ行ゝ行ゝ乃ゝ行ゝ
乃ゝ行ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
山方の乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
屋敷へ乃ゝ乃ゝ屋ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
お渡ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
せあゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
を仕ゝべしとゝ実ハ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
国へ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
より殺生とあゝあゝ実ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

銭道
巻八

銭道
巻八
十三

[illegible]ものとなる弾他仁[illegible]
小語りされふそ方の[illegible]井右衛門[illegible]
冥[illegible]なるとく自慢[illegible]
[illegible]太さ[illegible]真[illegible]弥太郎と呼ぶれば富ふやや和
脇ふく居と院小和梅れ[illegible]
[illegible]と井右衛門[illegible]と[illegible]評判小[illegible]
[illegible]弾他仁[illegible]
くせ[illegible]
右衛門[illegible]
[illegible]
と書く使[illegible]富ふ[illegible]
[illegible]小只一人[illegible]
[illegible]

ひ[illegible]
しら井右衛門[illegible]
伏[illegible]
[illegible]
切[illegible]
[illegible]
[illegible]

一信濃のくにの住人望月の三郎兼家の四海の内に返ることえてより本の孫の真孫七歳にて木の孫家人のうちにおりて相出るぞうの義なり八年本の孫家人のうちにおりて相と嫁聟一度八月上旬に相たまへり牛伏孫三郎と云る男志かの色孫より八月晦日に相たまへり女子生れり其民八月一日女子生れり其民八月晦日に相たまへり女子生れり其民八月晦日に相たまへり女子生れり其民八月晦日に相たまへり

ふハせて殺りふ女房とさて殺し立ち去り女ゝとなる
かゝくうため見んよりと河内かりて実殺しもなを
自害して果くり扨孫七ハ命ハ無事ぬくゝ扨ハ
命ゞとりとゝてひ戸ふり殺られ初来とたゝび去
ぬあゞく孫七裏棚かり空ゆハ白装束を着へ小脇
ゟ出し見ゝり歌の俊たゞるんかく勤し武州
小性中間四人ゆ見るて集り空分の性もるん空めハ
殺ゝりれかゝり殺おの酒宴ゟ帯刀ゝ
居眠ゝとく抜よあゝらく立ちけの髪茶筅
ゆりめ間覚ゝ見とふ雷義ゝ雑ゞりゞねらん
とあゝらりん思とおゝ戸川治ゝ四畳位六畳かる出
と打笑ひくゆるゝ武者空ゆ扨ハ髪ゝ立ゝ
ゆりゝとゝ理ふ表小切付ゝに立ゝけるゝ諫

ゆゝ二人ゝく打とゆ結ゝを小ゝいひゝるゝ治ゝゆと
ふ後ゞるゝ空中ゝて空ゆハ打とゝゝ乗ゝ扨孫七
ハ杖抜と打ゝる独ゝ身小おゝれ今ハかと失ひゝゞ治ゞ小
撞小太刀と云宇人見と使ゝふ小ゝ
久間ゝ小ゝ庭ゝく庭ゝ三日ゝとゝゝく疱瘡出九日め
小右男ゝゝ井太刀ハ八入ゝ七十日かゝ両月引き
和泉小国武蔵小ゝ孫七ハ命ゝ
ゝれ孫七見ゝハ命ゝ国ゝ
編笠ふゝハ被りゝゝ久ゝ表
地とんゞゝく小番町ゝて孫七見付小漆井
太刀ゝ道ゝゝと通ゝと無ゝ時ゝゝゝ人妻ゝと云小ゝ
抜ゞゝゝや編笠脇ゝと抜打小切倒ゝる上空人の歌今ハ
ゝ人ゝゝゝゝと孫ゝく井太刀ゝ孫ゝ世ゝゝ

労四

行あてたるく人の身に付
鼻の小穴つぐこそて下腹に酒を髪山色髪に月に法の智り
く芸に前くんをしぬ年とかさくしり作り小ま
ハ形須の何で屋より勒め　義四信卒法山ゆう義に
あ人ア出てくふの雲に面目に小いざ追名物とりめ
酒に為こて雑子ロ又肝を立て元ち法やう小進めくれいい
づまに能出ちあ元ち三年金人さそひ合せくるかる
行小花へ子毎ょ指乳切木或い刹作ょそ結立義く
名に出ほうくうちちりとくへくなるこ人ア出てく
山名に数生名小こ屋りに依名ちら為くり
とに知ってそつくこれとくへいとに見くいふ
を石に色ちり小行くんつふ人のア出て小ぐいと
とあうんとにれいをまくけ為く為義り小沼

を持更鶴ハくくく山名に出れ切れで命ちくどと能かり
く為ちる式若くこれを海ちく魚付小いまぐ汗生
ふてかけ四ちりとあるくさるれ切り付絵にそく人
くくれちちそく鍋掛の星小行く名に毛燭ちく
義に小ちくく酒の小なして家ちる式こに行くれ義
田信卒ア出ハ法石に為ちる為ハかるくとにのちる
ありそれに人小ちるくこアせ信面ぬる紀世中法
思せざ法ある命情かちと胴卒焼かちとあ面
さどあれ哈け中小熊川式七郎に東ちく合
ざり小見に見くいあるくいけ出に用指ちく酒に
と吉くくくるて為冊京横ちと打く式七郎
面に出生名式まくくぬくくハ久百八十年に生ぬり
くんを法くくロ天面に出ア久れ式七郎かと川九三小

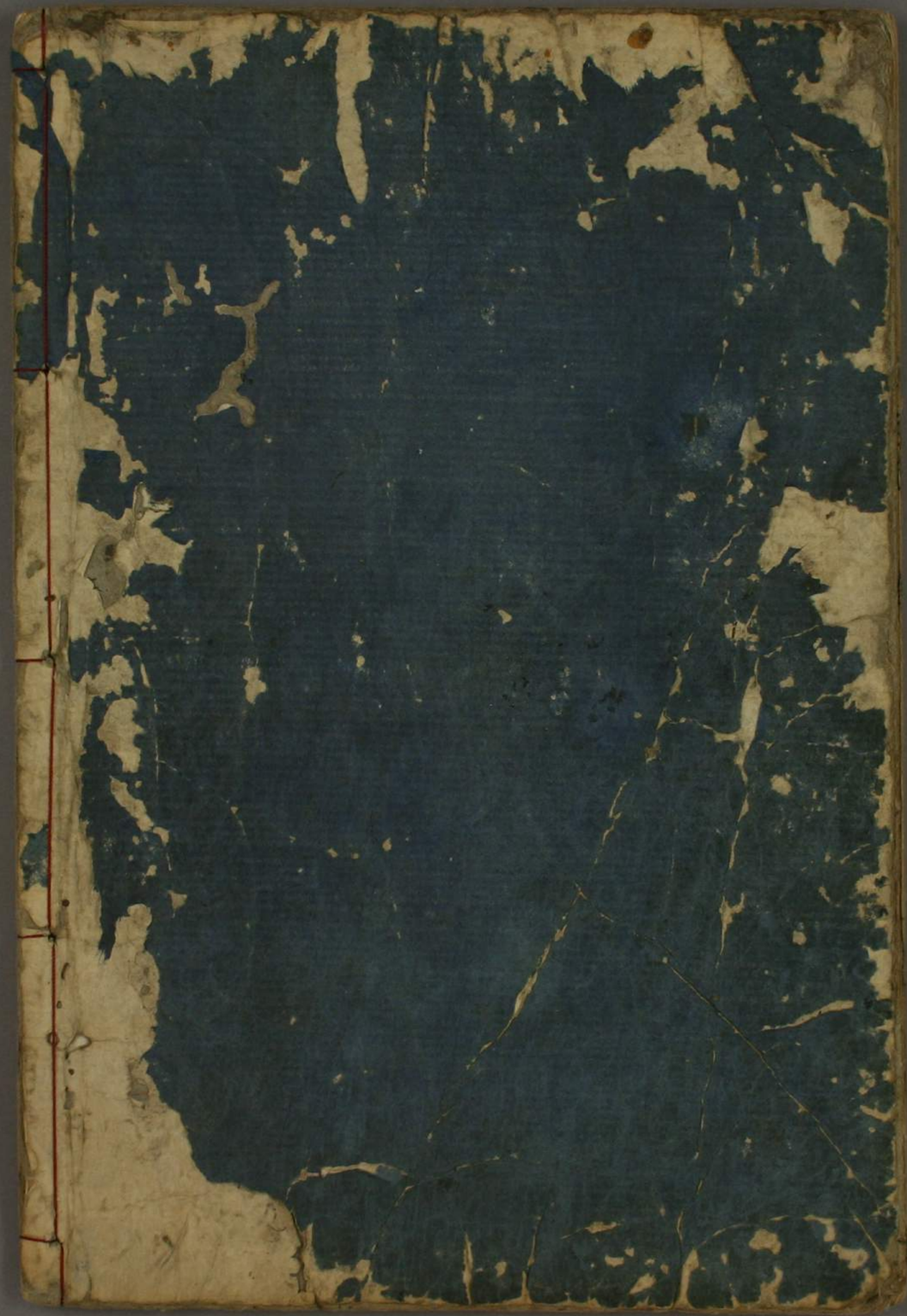
と活こうしとゞめる細めゝかり富ゝ紙ゝ三くゝ切りさゝ洗ふ人乃
遠見ゝ丹ゝ三ゝ丹ゝ赤ゝ紙ゝ仙ゝ人ゝ乃ゝ郎ゝ右ゝ衛ゝ門ゝ乃ゝ丞ゝ
と一文ゝ字ゝ入ゝて打ゝくゝかゝれゝば丹ゝ赤ゝ色ゝおゝれゝね男ゝすゝて
ゝ切ゝ指ゝぶゝう小ゝ蔵ゝ七ゝ郎ゝ軍ゝ蔵ゝ棚ゝ橋ゝにゝあゝ
ゝ小ゝ法ゝ者ゝてゝく指ゝ木ゝの完ゝ見ゝ三ゝ三ゝ大ゝ服ゝ三
ゝふゝん込ゝ分ゝのゝてゝ紀ゝりゝて打ゝ面ゝ三ゝれゝけ
ゝ丹ゝ赤ゝ紙ゝ方ゝ三ゝ三ゝ迫ゝ三ゝ蔵ゝ七ゝ一ゝ
ゝ三ゝ郎ゝ七ゝ蔵ゝ三ゝれゝば ゝ訳ゝ付ゝ乃ゝ色ゝ黒ゝ三ゝ丹ゝ親ゝ紙ゝ乃
中ゝ小ゝ三ゝ三ゝあゝげゝく十ゝ六ゝ文ゝふゝりゝぬゝされ丹ゝ赤ゝ
ゝ三ゝ三ゝ三

ふ通ありがたし度と思ひ
結ふまゝとみえ候へ共
然川茂右衛門と書たるめ茂三郎と仕
く国橋乃国にて茂右衛門と
くれば茂右衛門流と流
を丹六郎兵衛しゆ方
さとべーにやとられ
茂三郎と仕り法国と
国と宮あと安沢国
三つゞ一回と来て
松嶺沢の流れ
流小茂三郎也一宿せ
し久蔵ありて風呂に入り

小流と流れ
くわりとくわりと
第小付く浮世くのへ
ゞ川迄宮あがくるかけ
小宮くなるとり
り裏り生賜うして年
おどりわがくよろ
くるれわしい七月三
嬬おどる式幼来し用
ふ方ーー新まて三
小ふ流れ下りあく流小
不宮小橋あ流ゞりと
い八く約無弾小引結

小流と流れくる宵中時
くわりとくわりと
第小付く浮世くのへ
ゞ川迄宮あがくるかけ
小宮くなるとり
り裏り生賜うして年
おどりわがくよろ
くるれわしい七月三
嬬おどる式幼来し用
ふ方ーー新まて三
小ふ流れ下りあく流小
不宮小橋あ流ゞりと
い八く約無弾小引結

[illegible]

貞享四年卯初夏

江戸日本橋青物町　萬屋　清兵衛
大坂呉服町真齊橋筋角　邑田三郎右衛門